

出題分析			
試験時間	90分	配点	50点
		大問数	4題
分量 (昨年比較)	[減少]	同程度	増加]
		難易度変化 (昨年比較)	[易化 [同程度] 難化]
<p><b>【概評】</b></p> <p>〈現代文〉</p> <p>昨年度より、本文の分量は (一) はやや増加、(二) はやや減少。設問数は (一) と (二) 合わせて 14 で 2 つ減り、解答数は 18 で 1 つ減った。本文は (一) (二) とともに、受験生にとってテーマが身近に感じられないものだったため、分かりにくかっただろう。設問は、(二) は概ね取り組みやすいが、(一) は一部選択肢の判断が難しく、解答に迷うものがあった。</p> <p>〈古文〉</p> <p>本文の分量は昨年よりやや減少。設問数は 1 つ増えたが解答数は変化無し。物語文だが和歌は含まれず、内容を把握しやすい文章だった。文法や文学史の設問は基礎的な知識で対応でき、判断に迷う選択肢も少なかった。</p> <p>〈漢文〉</p> <p>本文の分量は昨年と同程度。設問数は 1 つ減り、5 であった。全体としては、漢文の基本的な語句の知識をおさえていれば解答できる設問が多かった。ただし本文に注が少なく、地名が多く登場することから、内容を整理して丁寧に読み進める必要があった。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	現代文 (評論) 中島啓勝『ておくれの現代社会論』	民主主義を悲観する二つの立場を踏まえて、現代社会の問題点について論じた文章。政治思想についての理解がないと、本文は読みにくかっただろう。設問は、問四が選択肢の判断が難しかった。内容説明 4 問 (うち 1 問は解答数 2)、理由説明 1 問、空欄補充 1 問の構成。	やや難
二	現代文 (評論) 姜信子『語りと祈り』	地域や個人それぞれの経験から物語を立ち上げ語る「民の歴史実践」が大切だと述べた文章。本文はエッセイ調の評論だったため、慣れていないと主旨が掴みにくかっただろう。設問は、語句の意味や文学史の出題があった。内容説明 2 問、漢字 1 問 (枝問 2)、語句の意味 1 問 (枝問 2)、理由説明 2 問、文学史 1 問 (枝問 2)、内容合致 1 問の構成。	標準

三	古文 (擬古物語) 本居宣長『手枕』	本居宣長が、『源氏物語』には描かれていない光源氏と六条御息所の馴れそめを補う形で書いた物語。敬意の対象1問(枝間3)、解釈3問、漢字の読み1問、内容説明1問、主体判定1問(枝間3)、文法1問、内容合致1問、文学史1問の構成。	標準
四	漢文 (逸話) 司馬光『涑水記聞』	本文は、北宋の宰相・寇準の幼少期のエピソードと、異民族の侵入に際して皇帝に行った進言とから成る。漢字の意味1問、解釈1問、返り点1問、内容説明1問、内容合致1問の構成。	標準

#### 合格のための学習法

##### 〈現代文〉

教育学部の出題は、各設問の選択肢に一部紛らわしいものがみられる。選択肢と本文を照らし合わせ、丁寧に選択肢を吟味することを日頃の演習でしっかり練習しておこう。また近年は哲学的、社会学的、政治学的、文学的テーマも多く出題されるため、それらのテーマを扱った評論文を読み、過去問演習に取り組むことで、設問に対応できるようにしておきたい。

##### 〈古文〉

出典は物語が多いものの、日記や説話など幅広いジャンルから出題される。難度の高い文章が課される年もあり、標準レベル以上の文脈把握・内容理解が要求されるので、単語・文法などの基礎知識を固めた上で読解演習を積み、実戦力を培ってほしい。また、和歌修辞や文学史の知識が問われることもあるので確認しておこう。

##### 〈漢文〉

奇をてらわず、基本～標準レベルの語句・句法を確実に身につけていれば、一定程度の得点が見込めるだろう。ただし本文のジャンルや設問の形式は多岐に渡るため、早いうちに基礎を固めたうえで、過去問などでさまざまな文章に触れ、どのような問題にも対応できる力を養っておきたい。